

# AIDS UPDATE

No.75 2007. 7. 24

広島大学病院  
エイズ医療対策室  
内線5581(輸血部長室)  
Internet:www.aids-chushi.or.jp



## 抗HIV薬 服薬指導研修会のご報告

今回で通算19回目となる『薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会』が、6月30日(土)～7月1日(日)の2日にわたって、八丁堀シャンテで開催されました。これまでの研修会参加者は累計380名を数え、対象である中国四国地方エイズ診療拠点病院の薬剤師のみにとどまらず、名古屋や東京からも毎回参加希望のある、内容の濃い研修会です。



第19回研修会は、厚生労働省の『HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班』主任研究者である、岡慎一先生(国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター長)をお招きし、最新の抗HIV薬についてご講演をいただきました。その後は、症例検討や患者様の話、共催の『HIV専門カウンセラー研修』への参加者であるカウンセラーやソーシャルワーカーからのアドバイスを交えてのロールプレイをみっちり行い、研修会が終了しました。

今回は、研修会後のアンケートから得られた、参加者の感想をご紹介します。

### 【研修会で得られたもの・今後の活動】

参加者全員がHIV感染症や抗HIV薬の知識を得ることができたと答え、70%以上の参加者がコミュニケーション技術を習得できたと解答しました。今後の院内活動では、当研修会の部局内伝達や他職種を交えたチーム医療への参加を目標とした人が多く見られました。

### 【今後の研修会・ブロック拠点病院への期待】

最新のHIV感染症や抗HIV薬に関する情報提供、また患者さんの体験報告や社会的状況を知りたいという意見が多く集まりました。当研修会の継続に加えて、症例相談をして欲しいという参加者も多くおられました。

### 参加者の感想から

岡先生の話、症例検討、患者さんの話、ロールプレイとその内容も様々でバラエティに富んでおり、勉強になった。何度参加しても勉強になるので続けてください。

初参加で全くの知識のなかった私ですが、とても勉強になりました。特に患者さんの話は心理的なものなど私たち医療側に分かり得なかったものが知れて衝撃を受けました。

ロールプレイで服薬指導のようすを見たりそれに対する色々な意見を聞くところで大変勉強になりました。また、患者さん本人の話や、医師や他の職種の方々の話を聞く事ができてとても良かったです。



(情報担当 佐藤)



## 山形操六先生記念 HIVカウンセリングセミナーへ参加してきました!

6月23日、HIV領域に関わるカウンセラーとソーシャルワーカーの育成助成を目的とした、「山形操六先生記念 HIVカウンセリング・セミナー」が東京医科大学病院にて開催され、エイズ医療対策室からはソーシャルワーカーの船附が初めて参加をさせていただきました。

まず、HIVカウンセリングの話題では、「首都圏におけるHIVを囲む最近の問題」、「心理・ワーカーに必要な HIV診療・抗HIV薬の最新情報」、東京都と群馬県における派遣カウンセラーの経験や血友病患者さんとの関わりと薬害についての講義がありました。

どの講義も参考になるものでしたが、特に荻窪病院の小島先生の講義では、都内の主要な拠点病院で患者集中により対応が難しくなっている一方で、患者を見えない拠点病院があるなどの病院間格差が進行していること、HIV診療をしている医師への負担が大きく後継が育ちにくいこと、診療報酬に関連する加算基準や査定などの問題や、病診連携や長期療養の困難さなど、首都圏の現状について多くの問題が挙げられました。

また、障害者福祉制度と関連するものとしては、自立支援医療は「AIDS発症となる23疾患に関する治療以外は適用を認めない」という動きが、関東などで出てきており、これによって、服薬による副作用治療やあるいは単なる風邪などでは制度が利用できない地域も出てきているそうです。関東と比較して患者さんの少ない中四国地域では認識しづらい、頭の痛い問題が次々と起こっていることに驚きました。



しかし、このような状況を改善するべく、小島先生たちはこの研修会の前日に厚生労働省担当官への申し入れを行なわれたとのことで、医療現場だけではなく、政策についても関与していく力強さに感銘を受けました。

HIVソーシャルワークの話題では、伊賀先生より、HIV感染症に関連する医療費制度の最近の制度改正や、転院、在宅医療等に関する諸問題について、非常に分かりやすい情報提供をいただきました。こちらの講義でも、HIV患者さんで長期療養が必要になった方や高齢の方では、医療制度上の問題により療養病床への転院や老人保健施設への入所が困難である現状が分かりました。



さらに、厚生労働省研究班のカウンセリング研究グループからは、研究成果発表やHIVカウンセリングについてのホームページ紹介がありました。実際に患者さんがホームページを見つけてカウンセリングに関心を持ち、カウンセラー紹介となった例や、「HIV感染者へのアンケート調査結果」について明確な答えが出にくい「感染の受け入れ」や「家族やパートナーへの告知」、「気分の落ち込み」などの相談テーマに対する満足度の測定について、今後更なる検討が必要ではないか、などの意見も参加者から出されました。



今回の研修会はカウンセリングに関する講義が多く、また参加者の方もカウンセラーの方がほとんどでしたが、普段ではなかなか聞けない最新情報を得ることができました。また他の病院のワーカーさんともそれぞれの地域の現状を交換することができ、有益な時間を過ごすことができました。 (ソーシャルワーカー 船附)



## 活動予定：広島市保健センターでHIV検査研修会を行います。

HIV抗体検査は、病院・保健所で行われていますが、保健所の検査は無料匿名であることがメリットです。広島市では全ての保健センターで迅速検査での対応が始まり、受検者が急増しています。その中で迅速検査で判定保留となるケースや確認検査で陽性となるケースも増えています。

検査担当者にとっては、これまで経験のない（少ない）判定保留説明や陽性告知を行うことになってきており、その中で、様々な戸惑いや充分に対応できないという不安が出てきました。

そこでこの度、8月17日に広島市保健センターの医師・保健師・看護師を対象にHIV検査研修会を行うことになりました。広島大学病院からは輸

血部の藤井輝久医師、エイズ医療対策室の後藤文子看護師、喜花伸子臨床心理士が講師及びスタッフとなる予定です。

研修会では、検査にまつわる知識や告知の仕方、カウンセラーへのつなぎ方などを、講義、グループディスカッション、ロールプレイを通して、実践的に学んでいただければと考えています。検査のみを行う機関においては、感染者のその後の生活をイメージしにくいいため、適切な情報提供ができにくい場面もあるかと思えます。病院スタッフの経験を保健センタースタッフにお伝えすることが保健センターでの受検者へのよりよい支援に繋がればと願っています。

（臨床心理士 喜花）



## 第1回中核拠点病院連絡協議会&研修会 報告

6月14日に行われた『平成19年度広島県エイズ治療中核拠点病院等連絡会議及び医療従事者等研修会』は、県内で初めてブロック拠点病院・中核拠点病院・拠点病院・受療協力病院の計27病院と、県医師会・歯科医師会・臨床心理士会の代表者が一同に集い、情報交換をする機会となりました。

各拠点病院でのHIV診療の現状を報告し合い、受療協力病院にも広島県のエイズ診療の実情を知ってもらえる機会となったことは、とても有意義であったと思います。また、後半の研修会では、参加者の先生方が熱心に講義を聞かれているのが印象に残りました。針刺し事故後の対応についても、広島県の担当部署などを交えた意見交換が活発になされていました（情報担当 佐藤）

### 【プログラム】

#### 連絡会議

- 1) 「県内の新しいエイズ医療体制」
- 2) 「各病院のエイズ医療」
- 3) 「ブロック拠点病院から」
- 4) 「受療協力医療機関から」

#### 研修会

- 1) 「エイズ検査を勧めるコツ」
- 2) 「ニューモシスチス肺炎の診断と治療」
- 3) 「針刺し事故対応」

